

渥美線2駅にAED設置

鉄道路線で県内初

豊橋鉄道(豊橋市南松山町、水野忠之社長)は

21日までに、渥美線の新

豊橋駅と高師駅に、救急

蘇(そ)生の医療機器「A

ED」(自動対外式除細

動装置)を各1台設置し

た。鉄道路線におけるA

EDの設置は、県内で初

めて。

AEDは、心臓が不規

則にけいれんする「心室

細動」が発生し、血液を

全身へ送るポンプ機能が

果たせなくなった心臓

に、電気ショックを与え

て正常な状態に戻す医療

機器。昨年、一般の人の

使用が認められるように

なった。

豊橋ハートセンター

(同市大山町、鈴木孝彦

院長)からAED2台の

寄贈を受けた豊橋鉄道

は、設置に先駆け、同セ

ンターの協力で使用方法

や救急蘇生法の講習会を

実施。電車・バスの乗務員を中心に、のべ約150人が受講した。

新豊橋、高師両駅ともに、目につきやすい改札口前に設置。新豊橋駅では、山口明宏・渥美線営業助役が「私も講習会を受講しました。鉄道利用者や地域の皆様が一刻を争う事態に遭われた時、大切な命を守りたい」と語っていた。

(杉浦文夫)



いざという時のために、設置されたAED—渥美線新豊橋駅で